

2018年5月17日

## 群馬県JAはぐくみタマネギ収穫調査

日本肥糧株式会社

- 1) 調査日: 2018年5月10日
- 2) 場所: JAはぐくみ東部営農センター国府管内
- 3) 生産者名: U様
- 4) JA担当者: S様、K様
- 5) 試験目的: タマネギ栽培におけるネバリンの施用効果を確認する。
- 6) 圃场面積: 試験区、慣行区計38アール(各区約20アール)  
土壤改良材: 顆粒苦土生石灰  
堆肥: 10トン/38アール  
基肥: 麦玉一発(18-10-10)160kg(8袋)/38アール  
区画: 試験区(麦玉一発+ネバリン)、慣行区(麦玉一発)  
圃場の状況;



試験区圃場4畝(右3畝品種ソニック)4/4撮



慣行区圃場(左より4畝)4/4撮影



試験区圃場4畝(右3畝品種ソニック)5/10撮



慣行区圃場(左より4畝)5/10撮影

4月4日の地上部の状況は、試験区で旺盛な生育を示していた。  
5月10日には、地上部は、前週の風の影響で全体的に倒伏していた。

### 7) 耕種概要

- ① 土壤消毒の有無: なし
- ② 品種: タマネギ「アドバンス」
- ③ 栽植密度: 畝幅120cm、7条植; 条間15cm、株間15cm(マルチ栽培)、畝間50cm
- ④ 播種時期: 9月20日

- ⑤定植期:11月23日～11月24日
- ⑥収穫期:5月15日
- ⑦前作物;ハクサイ(タマネギーハクサイータマネギ)
- ⑧堆肥施用:2600kg/10a、7月11日
- ⑨基肥:試験区麦玉一発(18-10-10) 42kg/10a、N7. 6kg、ネバリン40kg/10a (11月4日施用)  
対照区麦玉一発(18-10-10) 42kg/10a、N7. 6kg(11月4日施用)
- ⑩追肥:NK17(17-0-17) 60kg(3袋)/38a、N2. 7kg/10a(1月8日施用)
- ⑪殺虫剤;スミチオン乳剤1000倍液3月3日散布
- ⑫殺菌剤;ヨネポン水和剤500倍液3月3日散布

8) 収穫調査結果;

通路側より試験区、慣行区の4畝の手前側より各畝10株ずつ収穫を行った。また、慣行区の端は樹木の影響があったため、3m程度ずらした所より採取した。たまねぎ規格板により規格を判定した。規格サイズは次の通りです。たまねぎ規格(直径cm); 2L:9.5～12cm、L:8～9.5cm、M:7～8cm、S:6～7cm、SS:5～6cm、外は直径5cm以下  
試験区、慣行区の規格別数量と全重を表に示した。

	2L	L	M	S	SS	外	全重kg
試験区	11	17	6	4	1	1	14.58(156)
慣行区	0	8	18	10	4	0	9.35(100)

試験区、慣行区の状況を写真に示した。



4畝40球抜き取り調査状況(左:試験区(ネバリン施用)、右:慣行区)

【結果】

ネバリンを施用した試験区では、L、2L品が多く、慣行区では、M品が中心で2L品はなかった。写真で示した状態の全重を比較すると、試験区では約1.6倍重量が増えており、ネバリン施用により明らかに収量が増えることが推察された。

以上